

認知症街頭啓発 よし笛&ギター演奏

認知症キャラバンメイトが、認知症の関連のチラシとファイルを配布します。また、よし笛とギター演奏で、「ふるさと、赤とんぼ、川の流れのように」など10曲程度を披露します。

【とき】9/17(金)・22(水) 17:00～18:00

【場所】フレンドマート竜王店 入口付近



認知症キャラバン・メイトとは、キャラバン・メイト養成研修を受講し、地域や学校へ出向いて「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症の基本的な知識や認知症の人との接し方などを伝える講師のことです。

認知症サポーター養成講座

認知症に関する正しい知識と理解をもち、地域や職場で、認知症の人や家族に対してできる範囲で手助けをする人のことです。例えば、友人や家族にその知識を伝える、認知症になった人や家族の気持ちを理解するよう努める、困っていそうな高齢者に声を掛けるなど、自分にできることを行います。



認知症サポーターの目印
【オレンジリング】

【とき】11/20(火)・12/25(土) 14:00～15:30

【場所】竜王町公民館 2階 研修室

【申込】竜王町地域包括支援センター

☎58-3704 ☎58-8019

(公社)認知症の人と家族の会

滋賀県支部「無料電話相談」

☎ 0120-294-473

毎週月～金(祝日・お盆・年末年始は休み)
10:00～15:00

動画で学ぶ認知症

コロナ禍の中で医療や福祉職の現場が多忙を極め、研修に参加できなかったり、日々の認知症ケアに悩める人が多いとの声をお聞きしています。そこで、竜王町認知症地域支援推進員が、認知症に関する教材として動画を作成しました。対象・目的別にぜひ、ご活用ください。

地域向け講座



「認知症の“人の気持ち”」
～思いを理解してかかわる～
専門用語を使わずに初めて認知症について学ぶ人にも分かりやすい内容です。

専門職向け講座



「認知症の“人の気持ち”」
～思いを理解してかかわる～
認知機能障害・行動心理症状など専門用語を使いながらOJT(※)としても活用できる内容です。

予防編



「認知症の予防について」
～脳を元気にしよう～
認知症予防のポイントを知っておくことで、日々のアクティビティ(活動)を振り返るきっかけになります。地域のサロンでも活用いただける内容です。

※OJTとは「オン・ザ・ジョブ・トレーニング」の略。職場の上司や先輩が部下や後輩に仕事を通じて指導し、知識、技術などを身に付けさせる教育方法のこと。

●教材の資料は町ホームページからダウンロードできます。



“若年性認知症”を知りたい

東京都健康長寿医療センターの調査によると、18歳から64歳までの人口10万人当たりの若年性認知症者数が約50.9人であることが判明しました。これを竜王町に置き換えると約3.3人になります。高齢者とは異なり、その年代に合った社会支援が必要となります。若年性認知症を知るならこの2冊がお勧めです。



▲若年性認知症ハンドブック



▲若年性認知症ってなんだろう

●紹介冊子…社会福祉法人 仁至会認知症介護研究・研修大府センター／編集



▲若年性認知症ってなんだろう



特集

9月はアルツハイマー月間

認知症になっても安心できるまち

9月は「アルツハイマー月間」です。この期間を中心に、アルツハイマー病を含む「認知症」について、正しい理解を促す活動が世界中で行われます。

認知症高齢者の将来推計

高齢化の急速な進行により認知症高齢者は増加し、2025年には700万人を超える推計されています(厚生労働省)。これは、65歳以上の高齢者のうち、5人に1人が認知症を発症する計算となり、これを竜王町に置き換えると、高齢者3385人(令和3年6月末時点)のうち、677人が認知症になると想定されます。

早期発見と対応が大切

認知症は高齢期に多い病気の一つで、その多くはアルツハイマー病など脳の細胞がゆっくりと死んでいく「変性疾患」や、脳の血管が詰まって一部の細胞が死ぬ「脳血管性認知症」が原因です。症状が軽いうちに適切な治療を受けることで認知症の進行を遅らせたり、場合によっては症状を改善させたりすることができ、これまでの生活を少しでも継続することができる可能性もあるので、早期発見と早期治療など適切な対応がとても重要です。

「自分は認知症にはならない」と考える人も多いでしょう。また、認知症は高齢者の病気というイメージを持つ人も多い

「認知症になってもよろしくね」と言えるまちに

認知症の人とその家族が安心して暮らしていくためには地域の理解や協力が欠かせません。認知症の人への声掛けや見守り、介護している家族への労いなどは、身近にいる住民同士だからこそできることです。

竜王町では、認知症の人や家族が一人で抱え込むことがないよう、かかりつけ医、介護サービス事業所、ケアマネジャー、地域包括支援センターなどが連携しながら認知症の相談や支援を行っています。また、地域の人に対しても認知症サポーター養成講座やさまざまな認知症啓発を行い、認知症になっても安心なまちづくりを進めています。